

深志卓球部だより

2010, 10, 18

新人戦中信大会を終えて

学校男子対抗 6位 女子学校対抗 5位

女子シングルス ベスト16 (木下 咲)

学校対抗1回戦(対蟻ヶ崎)		
深 志	3-2	蟻ヶ崎
大 脇	10-12	伊 藤
	6-11	
	3-11	
横 山	11-2	宮 田
	8-11	
	7-11	
	11-8	
五 明	8-11	倉 科
	11-9	
	-11	
	6-11	
芦 田	11-3	伊 藤
	11-5	
五 明	8-11	清 澤
	11-6	
	11-6	
	11-8	
山 口	9-11	一 岡
	11-6	
	11-6	
	11-9	

学校対抗2回戦(対都市大塩尻)		
深 志	2-3	都市大
五 明	6-11	望 月
	11-2	
	11-9	
	10-12	
山 口	11-5	齊 藤
	9-11	
	3-11	
五 明	13-15	腰 原
	13-11	
	11-8	
	4-11	
有 賀	11-4	腰 原
	4-11	
	6-11	
大 脇	8-11	唐 沢
	5-11	
	3-11	
	3-11	

三年生の引退後、不在の二年生の穴を埋め、一年生が新チームで臨んだ新人戦の男子学校対抗は、混戦を切り抜け県大会へ進むことができた。組み合わせは春の大会の実績からシード権を得ていたが、今回はそのシードを守りきることができかが大きな課題となった。

今回の学校対抗の初戦はそのまま県大会への出場を決めるだけに、その結果は大きな運命の分かれ道である。数日前からオーダーを練り上げこの日に備える。ところが1・2番を立て続けに落とし、続くダブルスも2セット落とし後のないところに追い込まれる。ここから踏ん張り逆転で1点を返す。

順位決定戦（対松本県ヶ丘）		
深 志	3 - 2	県ヶ丘
松 井	6 - 1 1	小 林
	1 1 - 9	
	4 - 1 1	
	1 1 - 9	
	1 0 - 1 2	
五 明	1 1 - 9	押 沢
	1 1 - 9	
	7 - 1 1	
	1 1 - 4	
五 明 芦 田	1 4 - 1 2	押 沢 中 川
	9 - 1 1	
	1 1 - 8	
	1 1 - 5	
山 口	7 - 1 1	奥 原
	9 - 1 1	
	9 - 1 1	
横 山	1 1 - 3	中 川
	1 1 - 7	
	1 1 - 9	

順位決定戦（対松本第一）		
深 志	0 - 3	第 一
有 賀	9 - 1 1	青 木
	8 - 1 1	
	9 - 1 1	
山 口	1 0 - 1 2	増 田
	1 1 - 1 3	
	5 - 1 1	
五 明	9 - 1 1	青 木
	9 - 1 1	
	9 - 1 1	
芦 田	9 - 1 1	伊 藤

なおも後のないまま折り返し、ダブルスを取った五明が踏ん張り2点目を上げ、勝負をタイに戻す。五番の山口が最後を仕上げ大逆転で勝つとともに県大会につなげることができた。

次の都市大戦はシードを維持できるかの試合となるが、事前の力関係では相手の優位が動かず、厳しい展開が予想されていた。ところが試合が始まってみると、1番をとりダブルスも取って意外にもリードし

後半につながることができた。ところがここから相手の地力が現れ、一セットも取らせずに押し切られてしまった。このあとは5～8位決定戦にまわり、一進一退の結果、六位の順位が確定した。学校対抗では五明が単複に活躍し、勝利の原動力となってチーム大いに引っ張った。

一方の女子は前回一敗地にまみれ、県への出場に至らなかったが、今回は地区全体での出場校自体が少なく、リーグ戦で再会にならず限り県大会への出場が可能になっていた。女子の中でも最も時間のかかる試合展開になり、一進一退の結果、男子より一つ順位を上げて5位に入賞した。

大会二日目はシングルスのみで試合で、ベスト16が県大会への出場権を得ることになっている。男子の場合松商の存在が最も大きく、個人戦の県出場枠を確実に半分を占めてしまい、残りの枠をその他の学校で取り合う構図になっている。事実ベスト8がすべて松商のものとなり、今回はシングルのわくに手が届かずに終わる。女子は参加数も少ないことで2回勝てば県への出場ができる。参加したのは2年生2名で、これまでなかなか県大会に届かなかったが、今回ようやく木下が県へ進めることができた。